

日向

こめかみに枝突き刺して痛みの夜
頬伝う血も潤れ尽き
もはやこの俺に何が詠えよう
闇の抜けた呆け面だけで
笑え、このなれの果てを
お前たちは笑ってさえもくれないのか
今や嘆きさえも失ったこの凡人を
親しげな眼差し
恐怖も同情も嫌悪もなく
ああ、これこそ怠惰の極み
幸福か、これが幸福か
ああ、居心地がいい場所だ
ああ、もう抜け出せぬ
血は何処へ行ったのだ
俺の血は何処へ行ったのだ

(1985.1.2)